

福島県文化財センター白河館
年報 ～令和4年度実績～

公益財団法人福島県文化振興財団

年報（令和4年度実績）の発刊によせて

「見て・触れて・考え・学ぶ体験型フィールドミュージアム」として2001（平成13）年7月にオープンした福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」）は、本年の7月で22年を経過いたしました。本書は、2022（令和4）年度の管理運営実績を総括するものです。

2022（令和4）年度は、新型コロナウイルス感染症対策を継続し、入館制限や体験活動等でも参加者数に制限を設けるなど対策を講じて館の運営を行ってきました。当館を利用される皆様には御不便をおかけしましたが、当初計画した各行事を実施できたことは、ひとえに皆様の御理解と御支援のたまものと感謝申し上げます。

さて、2022（令和4）年度の企画展として、昨年度から会期を延長して開催した「戦後ふくしまの考古学」の他に、収蔵資料展「^{アンダー}U-15の考古学」、指定文化財展「ふくしまの上古刀」、ふくしま歴史探訪展「古代ふくしまの開発—矢吹が原を中心に—」を開催しました。

なかでも「U-15の考古学」は、学校で歴史学習を始める小中学生を対象として、教科書の内容とリンクさせながら、当館の収蔵資料を用いて「ふくしまの歴史」を身近に感じてもらう展示としました。

現在、感染症対策は緩和傾向にあり、白河館の入館者も徐々に回復しつつあります。当館では適切な対策を講じながら、「文化財を未来につなぐ」という私たちの使命のもと館の運営を行っています。職員一同、これからもこれまで以上に鋭意努力する所存ですので、皆様には、変わらぬ御指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年9月

公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館
館長 石川 日出志

目 次

第1章 白河館の概要	
1 白河館の業務	1
2 白河館の沿革	1
3 令和4年度の主な行事	2
4 災害等の影響	2
第2章 管理業務の実施状況及び利用状況	
1 利用状況	3
1. 利用者数	3
2. 入館者数の内訳と傾向	3
2 維持管理に関する業務	5
1. 建築物・設備・環境衛生・ 外構等保守管理業務	5
2. 施設・設備等の修繕状況	5
3. 備品・物品管理業務	5
3 文化財の収蔵・保管に関する業務	6
1. 収蔵資料	6
2. 資料貸し出し	6
3. 写真掲載等承認	6
4. 資料閲覧	7
4 文化財の活用に関する業務	8
1. 常設展示	8
2. 企画展示	10
3. 講演会等	16
4. 体験学習・イベント	18
5 文化財に関する情報発信	22
1. ホームページによる情報発信	22
2. データベースによる情報提供	22
3. SNSによる情報発信	22
4. まほろん通信の発行	22
6 文化財に関する研修及び技術支援	23
1. 概要	23
2. 研修実施状況	23
3. 技術支援状況	24
7 文化財の活用に関する調査研究	25
1. 文化財の調査	25
2. 体験学習等における試み	25
3. 文化財等に関する情報収集	25
4. 研究紀要	25
8 出土文化財の保存処理	25
1. 劣化防止等業務	25
2. 保存処理業務	25
3. 分類・データベース入力業務	26
9 ボランティア活動の支援	26
1. 募集	26
2. 登録	26
3. 活動内容	26
4. 支援体制	26
10 その他	27
1. 年報の発行	27
2. 運営協議会の開催	27
3. 博物館実習	27
4. 産業現場実習	27
5. 被災ミュージアム再興事業	27
6. 他機関との連携	27
第3章 令和4年度の組織と管理運営費	
1 組織	29
2 管理運営費	29
第4章 白河館施設の概要	30
第5章 白河館の条例・規則	
1 福島県文化財センター白河館条例	32
2 福島県文化財センター白河館条例 施行規則	32
白河館の利用案内	33



企画展「U-15の考古学」



講座「子ども考古学教室」

第1章 白河館の概要

1 白河館の業務

福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」）。以下「白河館」と表記する。）は、文化財等を保管・活用することによって県民の文化の振興に資するため福島県が設置した文化施設であり、平成13年7月に開館した。

白河館は、福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真、図面などの資料を収蔵・保管し、それを展示・体験学習等に活用すると共に、文化財を担当する市町村職員等を対象とする研修、文化財に関する情報発信等の役割を担っている。

福島県は、開館から平成17年度まで、財団法人福島県文化振興事業団に館の管理運営業務を委託していたが、平成18年度から指定管理者制度を導入し、管理運営業務を行う法人等を広く公募することにした。第1期（平成18年度から平成20年度まで）は財団法人福島県文化振興事業団が指定管理者に選定され、以降、第4期の現在に至るまで、同財団（平成26年4月に現名称に変更）が管理業務を担っている。

条例に定める館の業務は、以下のとおりである。

○考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。

○文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。

○文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。

○文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。

○文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。

○考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。

○白河館の維持補修及び管理に関すること。

○上記の他に、福島県教育委員会が別に定める業務。

なお、令和元年度からは、出土文化財の保存処理等に関する業務が追加されている。

白河館は貴重な文化財を様々な形で活用する施設であり、文化財の復元研究や体験学習活動を全国に先駆けて実施してきた。また、「遺跡から学ぶ自然と人間のかかわり」をメインテーマとして、「見て・触れて・考え・学ぶ」体験型ミュージアムを目指している。

2 白河館の沿革

平成6年度

福島県文化財保護審議会が「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申
平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年4月1日

福島県が財団法人福島県文化振興事業団に管理運営を委託

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成18年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が財団法人福島県文化振興事業団に3か年の管理運営を委託（平成21年3月31日まで）

平成19年4月14日 入館者20万人到達

平成21年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が財団法人福島県文化振興事業団に5か年の管理運営を委託（平成26年3月31日まで）

平成22年4月25日 入館者30万人到達

平成22年9月10日

開館以来館長を務めた藤本強館長が急逝。平成23年3月31日まで、館長職を福島県文化振興事業団富田孝志理事長が兼務

平成23年3月11日
東日本大震災発生。館内に被災箇所あり。4月30日まで臨時休館

平成23年4月1日 菊池徹夫新館長就任

平成23年5月1日
震災被害により使用できなくなった一般収蔵庫及び野外展示施設を除き、再開館

平成24年4月15日
野外展示施設修繕完了、使用を再開

平成24年5月3日
一般収蔵庫修繕完了、使用を再開

平成24年5月19日
開館10周年記念事業を実施

平成26年2月8日 入館者40万人到達

平成26年4月1日
「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が公益財団法人福島県文化振興財団に5か年の管理運営を委託（平成31年3月31日まで）

平成27年12月5日 入館者45万人到達

平成28年9月25日
開館15周年記念事業を実施

平成29年9月2日 入館者50万人到達

平成31年4月1日
「福島県文化財センター白河館指定管理者」として、福島県が公益財団法人福島県文化振興財団に5か年の管理運営を委託（令和6年3月31日まで）

令和3年10月16日
開館20周年記念式典及び記念企画展開幕式を実施

令和4年6月28日 石川日出志新館長就任

3 令和4年度の主な行事

令和4年1月22日～5月8日
企画展「戦後ふくしまの考古学—福島県学生考古学会の発足から福島県史の刊行まで—」

令和4年6月18日～9月25日
企画展「U-15の考古学」

令和4年10月22日～12月4日
指定文化財展「ふくしまの上古刀」

令和5年1月21日～5月7日
ふくしま歴史探訪展「古代ふくしまの開発—

矢吹が原を中心に—」

4 災害等の影響

新型コロナウイルス感染症の影響が続いているものの、国や県の方針、社会情勢等に合わせ、段階的に利用条件を緩和し、勾玉づくりなどの団体向け体験メニューの一部を再開した。また、館外イベントへの出展についても一部再開した。

また、福島県教育委員会は、東日本大震災により被災した博物館等の収蔵資料を保管するための文化財仮保管施設を当館の敷地内に設置している。本施設には、福島県被災文化財等救援本部により救出された、大熊町民俗伝承館・双葉町歴史民俗資料館の収蔵資料が保管されている。



まほろん感謝デー
アクアマリンふくしま移動水族館

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

令和4年度の総利用者数は、24,825名（令和3年度25,595名）で前年度に比べ770名の減であった。入館者数は、11,976名（令和3年度10,831名）、館外利用者数は12,849名（令和3年度14,764名）であった。

入館者数については、前年度から1,135名の増であり、コロナウィルス感染症による影響は継続しているものの、回復傾向にある。

小・中学校等の教育機関や生涯学習機関を対象とする「おでかけまほろん」、福島市で開催したまほろん移動展、講演会や研修会等を含めた館外利用者の総数は、前年度に比べ1,915名減となった。

2. 入館者数の内訳と傾向

入館者数は、11,976名（令和3年度10,831名）となった。

(1) 地域別利用状況

入館者の地域別利用者は、県内が9,764名（令和3年度9,425名）で81.5%（令和3年度87

.0%）、県外が2,212名（令和3年度1,406名）で18.5%（令和3年度13.0%）であった。白河市内からの入館者は4,719名（令和3年度4,776名）で前年度からさらに減少し、東白川・西白河両郡及び県外からの入館者が増加している。

(2) 年齢別利用状況

幼児、小・中学生、高校生が3,839名で、入館者全体の32.1%（令和3年度26.6%）、一般の入館者数は8,137名で、入館者全体の67.9%（令和3年度73.4%）となった。前年度に比べ、幼児、小・中学生、高校生の入館者の割合が増加した。

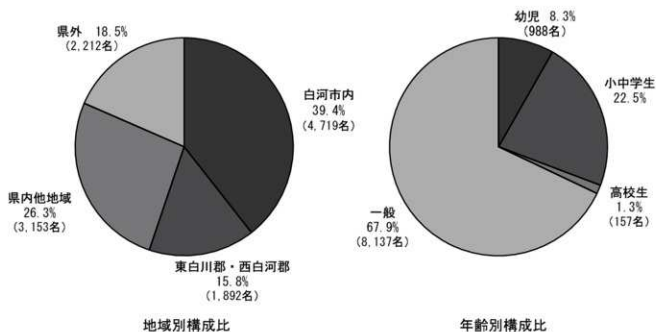
(3) 団体利用状況

入館した団体数は85団体（令和3年度は53団体）、団体による来館者数は2,121名（令和3年度1,193名）となり、前年度からは32団体、928名の増加となった。

このうち小学校の利用は、前年度の24校744名から30校1,180名となった。また、デイケアほか社会福祉関係の利用も前年度の4件46名から、8件111名と倍増し、社会における外出制限からの緩和ムードの影響が示された結果となった。

月別入館者数

令和4年度	年齢別属性		地域別属性		入館者	館外利用者	総利用者数 (合計)	令和3年度	
	幼小中高	一般	県内	県外				入館者	館外利用者
4月	186	567	644	109	753	0	753	704	148
5月	296	829	805	320	1,125	103	1,228	1,180	816
6月	458	559	861	156	1,017	547	1,564	1,172	11,895
7月	654	722	1,182	194	1,376	109	1,485	862	1,426
8月	380	815	879	316	1,195	0	1,195	1,082	27
9月	420	735	961	194	1,155	93	1,248	805	24
10月	296	725	770	251	1,021	223	1,244	951	212
11月	330	887	1,038	179	1,217	11,122	12,339	1,307	49
12月	137	460	469	128	597	184	781	708	61
1月	137	496	547	86	633	0	633	506	17
2月	320	656	888	88	976	350	1,326	693	6
3月	225	686	720	191	911	118	1,029	861	83
合計	3,839名	8,137名	9,764名	2,212名	11,976名	12,849名	24,825名	10,831名	14,764名



団体利用者一覧

団 体		令和4年度												令和3年度		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	合計	
学校関係	幼稚園・保育園	園数	1	1	1			2	1	2			1	7	16	7
		来館者数	15	9	9			28	14	22			14	84	195	82
	小学校	学校数	1		11	7		2	3	1			4	1	30	24
		来館者数	12		331	339		134	96	20			226	22	1,180	744
	中学校	学校数						1							1	1
		来館者数						35							35	39
	高等学校	学校数				1				1					2	2
		来館者数				33				28					61	50
	支援学校	学校数									1				1	1
		来館者数									27				27	23
	大学	学校数													0	1
		来館者数													0	19
幼小中高PTA (保護者のみ)	学校数													0	0	
	来館者数													0	0	
幼小中高PTA (親子レク等)	学校数			1				1						2	0	
	来館者数			44				88						132	0	
生涯学習関係	研究会	会数												0	0	
		来館者数												0	0	
	子ども会	会数									1			1	0	
		来館者数									30			30	0	
公民館等	館数			1	3				1	4				9	7	
	来館者数			13	65				13	79				170	122	
社会福祉関係	福祉施設・デイケアサービス	団体数		2		1	1				1	1	1	1	8	4
		来館者数		36		9	14					10	20	7	15	111
文化団体関係	資料館等	団体数													0	0
		来館者数													0	0
行政機関関係	歴史研究	団体数													0	1
		来館者数													0	7
行政機関関係	県・市町村・教委・審議会等	団体数										1	1		2	3
		来館者数										8	4		12	27
その他	その他	団体数			1	3		3	3	1	1	1			13	2
		来館者数			15	29		45	38	9	17	15			168	34
合計	団体数	2	3	15	15	1	9	9	8	5	2	7	9	85	53	
	来館者数	27	45	412	475	14	330	189	130	92	35	251	121	2,121	1,193	
総来館者数		753	1,125	1,017	1,376	1,195	1,155	1,021	1,217	597	633	976	911	11,976	10,831	
団体利用者の割合 (%)		3.59%	4.00%	40.51%	34.52%	1.17%	28.57%	18.51%	10.68%	15.41%	5.53%	25.72%	13.28%	17.71%	11.01%	

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務」の仕様書に則し、下記のとおり実施した。

- (1) 建築基準法第12条定期点検業務
(株)兼子組
- (2) 空調設備点検業務
常光サービス(株)
- (3) 消防用設備等保守点検業務
大槻電気通信(株)
- (4) 電話設備等点検業務
(株)ユニテック
- (5) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務
常光サービス(株)
- (6) 自動ドア保全業務
常光サービス(株)
- (7) 自家用電気工作物保安管理業務
(一財)東北電気保安協会福島事業本部
- (8) 展示用及び講堂用AV機器保守点検管理業務
(株)オリエンタル・エージェンシー
- (9) 植栽管理業務
(有)西牧植園
- (10) 清掃業務
(株)タイセークリーン
- (11) 除雪業務
(有)猪越土木
- (12) 警備業務
ALSOK福島(株)

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 令和4年6月28日
自動ドアセンサー修繕
- (2) 令和4年7月20日
消防設備等不具合箇所修繕
- (3) 令和4年7月25日
照明器具等不良箇所修繕
- (4) 令和4年8月23日
福島県文化財センター白河館令和4年3月地震被害修繕(正面入口敷石及び一般収蔵庫柱脚部修繕、福島県直轄事業)

- (5) 令和4年11月1日
ガスヒートポンプエアコン不具合調査
- (6) 令和4年10月21日
福島県文化財センター白河館陸屋根修繕工事(福島県直轄事業)
- (7) 令和4年12月14日
ガスヒートポンプエアコンガスカート交換修繕
- (8) 令和5年2月2日
特別収蔵庫空調加湿装置修繕
- (9) 令和5年2月9日
特別収蔵庫用空調加湿装置漏水修繕
- (10) 令和5年2月28日
正面入口看板修繕
- (11) 令和5年3月6日
中央監視装置用UPSバッテリー交換修繕
- (12) 令和5年3月13日
常設展示室他誘導灯交換修繕
- (13) 令和5年3月23日
特別収蔵庫煙感知器他交換修繕
- (14) 令和5年3月31日
福島県文化財センター白河館令和4年3月地震被害修繕(奈良時代の倉庫階段修繕、福島県直轄事業)

3. 備品・物品管理業務

基本協定書別表「管理財産一覧」について適正に管理した。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

	遺物	写真	図面	地図・カード類	無形の文化財関連	合計(簡)
一般収蔵庫	51,931	3,384	1,237	540	10	57,102
特別収蔵庫	739					739
合計	52,670	3,384	1,237	540	10	57,841

※1 一般収蔵庫の収容能力は最大66,000箱

※2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属遺物を収蔵

2. 資料貸し出し

(1) 遺物 (8件)

貸出期間	貸出先	資料名	数量 (点)
令4.1～令5.3.31	原町火力発電所(常設展示)	南相馬市大船迫A遺跡出土砂鉄ほか	21
令4.1～令5.3.31	須賀川市立博物館(常設展示)	須賀川市梅田横穴古墳出土須恵器	1
令4.1～令5.3.31	白河市歴史民俗資料館(常設展示)	白河市一里段A遺跡出土石器ほか	5
令4.1～令5.3.31	福島県立博物館(常設展示・継続分)	桑折町平林遺跡出土石器ほか	1,171
令4.1～令5.3.31	とみおかアーカイブ・ミュージアム(常設展)	富岡町前山A遺跡出土縄文土器ほか	10
令4.6.29～令4.9.9	大安場史跡公園(企画展「福島県における古墳時代の祭祀遺跡」)	正直A遺跡出土土師器ほか	42
令4.9.29～令5.3.28	じょもびあ官邸(企画展「縄文時代中期の土偶～月輪A遺跡を中心として～」)	七郎内C遺跡出土縄文土器ほか	4
令5.1.19～令5.4.21	福島県立博物館(ポイント展「ふくしまの巖手刀」)	観音山横穴出土巖手刀	1
		合計	1,255

(2) 模型及びレプリカ (2件)

貸出期間	貸出先	資料名	数量 (点)
令4.1～令5.3.31	福島県立博物館(常設展示・継続分)	散脚付容器(復元品)ほか	19
令5.1.19～令5.4.21	福島県立博物館(ポイント展「ふくしまの巖手刀」)	復元巖手刀	2
		合計	21

3. 写真掲載等承認 (22件)

承認日	申請者(掲載刊行物等)	資料名	数量 (点)
4.4.4	株式会社雄山園「木工の考古学」	いわき市大猫田遺跡出土独楽状木製品	1
4.4.7	有限会社三協倉 株式会社講談社刊「日本の歴史別冊 史跡・出来事事典」(仮題)	奈良時代のカマドほか	2
4.5.12	日本著作権教育研究会『愛知大学入試問題集』	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器	1
4.6.1	西都原考古博物館「古墳時代の台所革命と東アジア～美味なる“ごはん”の考古学～」 図録・解説パネル	玉川村江平遺跡住居跡写真ほか	3
4.6.12	株式会社かみゆ 株式会社JTBパブリッシング刊行『るるろ文』(仮)	郡山市荒小路遺跡出土土偶	1
4.6.17	大安場史跡公園 企画展「福島県における古墳時代の祭祀遺跡」解説パネル及び解説パンフレット	小野町落合遺跡出土土師器ほか	39
4.8.3	西都原考古博物館「古墳時代の台所革命と東アジア～美味なる“ごはん”の考古学～」 図録・解説パネル・ポスター	古墳時代の食卓	1

承認日	申請者(掲載刊行物等)	資料名	数量 (点)
4.8.10	鳥根県教育庁 鳥根県埋蔵文化財調査センター講演会「ここまでわかった出雲国府！」講演会パワーポイントおよびYOUTUBEチャンネル	多賀城に向かう兵士	1
4.8.18	柏書房株式会社 『土偶大辞典(仮題)』	石川町七郎内C遺跡出土土偶ほか	12
4.8.18	(一財)奥州市文化振興財団 奥州市埋蔵文化財センター特別展「鎮守府丹沢城と辺境」図録及び展示パネル	多賀城に向かう兵士ほか	2
4.9.7	山梨県立美術館 特別展「一 JOMON 一展」パネル展示、図録、広報材	飯江町田子平遺跡出土土面	1
4.9.16	(一財)奥州市文化振興財団 奥州市埋蔵文化財センター特別展「鎮守府丹沢城と辺境」図録	修復用品	1
4.10.14	大田区立郷土博物館 特別展「大勾玉展」図録	会津若松市一ノ塚B遺跡出土勾玉	1
4.12.20	前澤和之『上野国交特異録帳を読む—千年前の県政白書—』	弓を射る兵士・多賀城に向かう兵士	2
4.12.20	長嶋雄一 web版「奥会津ミュージアム」及び施設連携編文展図録	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡62号住居跡ほか	2
4.12.20	株式会社新泉社 『石製模造品による再送と祭祀』	郡山市正直A遺跡出土石製模造品ほか	37
5.2.7	ワールドスタッフィング「女性に寄り添うライフ・ワークサポート事業」小冊子	福島県文化財センター外観写真	1
4.2.10	鳥根県立八雲立つ風土記の丘「小札からみた出雲国府の祭祀」動画	弓を射る兵士	1
5.3.1	同成社『古代製鉄技術の復元的研究』	相馬市向田・E・F遺跡全景ほか	85
5.3.1	相馬市史	相馬市段ノ原A遺跡出土石器ほか	254
5.3.16	株式会社文字通信 縄文ZINE「土偶を読むを読む」	郡山市荒小畷遺跡出土土偶ほか	3
5.3.16	本間宏『ユー・イー会令和4年度第6回座談会スライドおよびその内容のオンライン配信』	郡山市荒小畷遺跡出土土偶ほか	10
5.3.20	秋田県立近代美術館 特別展「縄文 小川忠博写真展」パネル	田子平遺跡出土土面ほか	2
		合計	463

4. 資料閲覧

(1) 遺物(13件)

閲覧日	閲覧者(閲覧目的)	資料名	数量 (点)
令4.7.29	県外研究者(調査研究)	天栄村桑名塚遺跡出土縄文土器ほか	13
令4.8.23	県内研究者及び県外企業(展示予定資料の事前調査)	石川町谷地前C遺跡出土土師器ほか	41
令4.9.9	県内研究者(企画展の事前調査)	石川町七郎内C遺跡出土縄文土器ほか	4
令4.10.13	県内研究者(調査研究)	矢吹町弘法山古墳群出土ガラス玉ほか	2
令4.12.17	県内研究者(調査研究)	郡山市北向遺跡出土縄文土器	15
令4.12.18～19	県外研究者(調査研究)	飯館村松ヶ平A遺跡出土縄文土器ほか	1,728
令5.1.19	県外研究者(調査研究)	いわき市大久保F遺跡出土施軸陶器ほか	2
令5.1.20	県内研究者(企画展の事前調査)	郡山市正直A遺跡出土土師器ほか	346
令5.3.5	県内研究者(調査研究)	須賀川市高木遺跡出土土師器ほか	14
令5.3.10	県外研究者(調査研究)	南相馬市朝大道製鉄遺跡出土土器ほか	20
令5.3.17	県外研究者(調査研究)	白河市荒内古墳群出土土具ほか	30
令5.3.25	県外研究者(調査研究)	郡山市正直A遺跡出土土師器ほか	11
令5.3.28	県内研究者(企画展の事前調査)	三春町栗原A遺跡出土土偶	1
		合計	2,227

4 文化財の活用に関する業務

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ① 「まほろんの逸品」
- ② 「探してみよう福島の文化財」
- ③ 「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)

2) 常設展示室

- ① 「めぐみの森」
- ② 「暮らしのうつりかわり」
〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
〈旧石器時代〉
- ③ 「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー 〈まほろんビデオBOX〉
- ④ 「遺跡を掘る」

⑤ 「展示コーナーA」(旧みんなの研究ひろば)

⑥ 「クイズ福島歴史発見」

⑦ 「のぞいてみよう福島の遺産」

⑧ 「展示コーナーB」(旧話題の遺跡)

⑨ 「展示コーナーC」(旧しらかわ歴史名場面)

⑩ 「国指定重要文化財 法正戻遺跡」

⑪ 映像展示

※⑤⑧⑨は、コーナー名称にとらわれず、フレキシブルに展示スペースを活用するため名称を変更した。

(2) 展示替え

令和4年度の展示替えは、別表一覧のとおりである。年度当初に作成した展示計画案をもとに、企画展事業や他の事業との関連をもたせる内容とした。

展示替え一覧

コーナー	タイトル	開催期間	所有者	備考
まほろんのイッピン	「県内では希少子持ち須志器」江平遺跡(玉川村)	令和4.4.5～令和4.5.31	福島県教育委員会	
	「あつまれまほろん縄文どうぶつ森」角間遺跡(磐梯町)ほか	令和4.6.1～令和4.8.4	福島県教育委員会	
	「仏教を象徴する記号の瓦」観音山遺跡(玉川村)	令和4.8.5～令和4.9.30	福島県教育委員会	
	「孔をもつ縄文土器」日向南遺跡(飯館村)	令和4.10.1～令和4.12.21	福島県教育委員会	
	「糸をつむぐ道具」土取場B遺跡(須賀川市)	令和4.12.22～令和5.3.2	福島県教育委員会	
	「鉄押と瓦」赤坂D遺跡(浪江町)	令和5.3.3～令和5.5.31	福島県教育委員会	
展示コーナーA (旧みんなの研究ひろば)	まほろん収蔵の天王山式土器	令和4.4.1～令和5.3.31	福島県教育委員会	令和3年度からの継続
	実技講座「土器づくり上級編」作品展	令和4.4.1～令和4.5.11	福島県教育委員会・実技講座参加者	令和3年度からの継続
	まほろんde考古学『モノの遊びを楽しむ』	令和4.5.12～令和5.3.3	福島県教育委員会	
	まほろん和器コレクション	令和5.3.4～令和5.3.31	福島県教育委員会	
	森遊生の活動(パネル展示)	令和4.4.1～令和5.2.2	福島県教育委員会	令和3年度からの継続
展示コーナーB (旧話題の遺跡)	双葉高校史学部の研究の成果	令和4.4.1～令和4.5.8	双葉町教育委員会	令和3年度からの継続
	X線CTからみる土偶の構造	令和4.4.1～令和4.5.8	福島県教育委員会	令和3年度からの継続
	実技講座「大瀬相馬焼に挑戦」作品展	令和4.5.12～令和4.9.10	福島県教育委員会・実技講座参加者	
	八景殿巻遺跡展	令和4.5.13～令和5.3.31	福島県教育委員会	
展示コーナーC (旧しらかわ歴史名場面)	東北自動車道開通遺跡の調査-古代白河郡のよう-	令和4.4.1～令和4.9.10	福島県教育委員会	令和3年度からの継続
	博物館実習生による展示「会津盆地の遺跡から読み解く地域間交流」	令和4.9.18～令和5.3.31	福島県教育委員会	
国指定重要文化財 公開	磐梯町・猪苗代町法正戻遺跡縄文土器	令和4.4.1～令和4.5.31	福島県教育委員会	国指定重要文化財
		令和4.6.1～令和4.7.31	福島県教育委員会	国指定重要文化財
		令和4.8.2～令和4.9.30	福島県教育委員会	国指定重要文化財
		令和4.10.1～令和4.11.30	福島県教育委員会	国指定重要文化財
		令和4.12.1～令和5.1.31	福島県教育委員会	国指定重要文化財
		令和5.2.1～令和5.3.31	福島県教育委員会	国指定重要文化財

1) 学芸員がおすすめする収蔵品を「まほろんの逸品」として、計6回の展示を行った。

2) 「展示コーナーA」(旧みんなの研究ひろば)

このコーナーは、歴史や文化財等に関する研究を紹介するもので、令和4年度は、前年度からの継続も含めて、計5回の展示を行った。

◆まほろん収蔵の天王山式土器(令和3年度からの継続)

白河市天王山遺跡の国史跡指定を記念して、同遺跡の紹介と当館収蔵の能登遺跡・和泉遺跡の天王山式土器等を展示した。

◆土器づくり上級編作品展

実技講座の参加者の作品と、手本にした白河館収蔵の縄文土器を並べて展示した。

◆まほろんde考古学『モノの違いを楽しむ』

考古学の基本である型式学をテーマに、土器や石器を年代順に並べ、その違いをクイズ形式で楽しむ展示とした。



まほろんDe考古学

◆まほろん和鏡コレクション

喜多方市荒屋敷遺跡などから出土した平安時代から江戸時代の和鏡11点を展示した。

◆森塾生の活動

小学4年生～中学生を対象とした通年型の体験学習である森の塾の活動の成果をパネル等で紹介した。

3) 展示コーナーB(旧話題の遺跡)

県内の文化財情報を収集し、話題性のある資料を速報的に展示するコーナーで、令和4年度は、前年度からの継続も含めて、計4回の展示

を行った。

◆双葉高校史学部の研究成果から

双葉町教育委員会所蔵の双葉高校史学部関連資料を展示した。

◆X線CTからみる土偶の構造

X線CTスキャンで構造調査した当館収蔵の土偶とその画像を展示した。

◆『令和3年度実技講座大堀相馬焼に挑戦』作品展

実技講座「大堀相馬焼に挑戦」の関連展示として、参加者の作品と、当館収蔵の双葉郡浪江町の遺跡出土の大堀相馬焼の資料等を展示した。

◆八景腰巻遺跡展

福島市八景腰巻遺跡から出土した縄文土器や石器を展示した。

4) 「展示コーナーC」(旧しらかわ歴史名場面)

このコーナーは、地元自治体と連携した展示も行いながら、白河地域の文化財について理解を深める展示を目的としている。

令和4年度は、前年度からの継続も含めて、計2回の展示を行った。

◆東北自動車道関連遺跡の調査—古代白河郡のムラ—

福島県における埋蔵文化財保護の初期の発掘調査例である東北自動車道関連遺跡発掘調査を紹介し、そのうち古代白河郡の集落跡の遺跡から出土した土師器等を展示した。

◆博物館実習生による展示：『会津盆地の遺跡から読み解く地域間』

当館で実施した博物館実習の一環で湯川村桜町遺跡や会津若松市西木流D遺跡などから出土した弥生土器や土師器を展示した。

5) 国指定重要文化財の公開

磐梯町・猪苗代町に所在する法正尻遺跡から出土した遺物のうち、国指定重要文化財の縄文土器などを選び、4月から計6回の展示を行った。

(3) 展示資料のメンテナンス等

常設・野外展示資料及び施設の状態について、展示担当の学芸員が定期的に点検を実施した。その他、軽微な修繕は、展示担当の学芸員が行った。

2. 企画展示

令和3年度に開催した「戦後ふくしまの考古学—福島県学生考古学会の発足から福島県史の刊行まで」の会期をゴールデンウィークまで延長し、令和4年度は企画展示を4回開催した。

(1) まほろん20周年記念企画「戦後ふくしまの考古学—福島県学生考古学会の発足から福島県史の刊行まで」

会期：令和4年1月22日(土)～5月8日(日)開催日数91日間うち令和4年度分33日間
観覧者数：3,139名うち令和4年度分1,390名
展示構成、内容については『年報～令和3年度実績～』に記載している。

(2) 収蔵資料展「U（アンダー）-15の考古学」

会期：令和4年6月18日(土)～9月25日(日)（開催日数86日間）
観覧者数：4066名

1) 趣旨

小学校6年生社会科の歴史の教科書に関連付けた内容で、日本の歴史を学び始めた児童が興味を抱けるような展示とした。また、白河館収蔵資料をもとに、福島県域における各時代の特

徴を解説し、教科書には載っていない事柄も見いだせる内容とした。

2) 展示の構成と内容

① 考古学について

教科書の最初のほうに載っている歴史は考古学でわかったことが書かれている。考古学は、遺跡、遺物などを手がかりに、昔の生活を明らかにしていくということをわかりやすくイラストや発掘調査のジオラマを用いて紹介し、観覧者の興味を引く導入部とした。

② 縄文時代のふくしま(教科書単元：大昔のむらのくらし)

県内出土の縄文時代の遺跡や遺物を紹介した。キーワード：竪穴住居・縄文土器・狩猟採集・食料

③ 弥生時代のふくしま(教科書単元：板付遺跡と米づくり)(教科書単元：むらからくへ)

県内出土の縄文時代の遺跡や遺物を紹介した。キーワード：弥生土器(甕・壺・高坏・蓋)・石廬丁・水田・再葬墓

④ 古墳時代～飛鳥時代のふくしま(教科書単元：巨大古墳と豪族)(教科書単元：大和朝(大和政権と国土の統一)(教科書単元：聖徳太子の国づくり)

県内出土の古墳時代の遺跡や遺物を紹介した。キーワード：前方後円墳・土師器・新しい土器・副葬品・鉄

⑤ 奈良時代のふくしま(教科書単元：仏教の力で国を治める)(教科書単元：大仏をつくる)

県内出土の奈良時代の遺跡や遺物を紹介した。



U-15の考古学ポスター



U-15の考古学

キーワード：律令・租庸調・官衙・仏教・大仏・木簡

⑥ オプショナルコーナー

東大寺大仏の大きさを体感できるよう、耳の部分の原寸大パネルを展示した。

3) 成果と反省

6月は、歴史学習を目的とした小学生の団体を来館が多い時期であり、多くの児童が楽しんで見学していた。7月と8月は、夏休み特別企画として毎日午前と午後によ芸員による展示解説

会を開催した。また、展示室内に難易度の違う3種類のワークシートを用意して、展示品を楽しみながらより深く観察してもらうことができた。一方、伝えたいという気持ちが先行して解説パネルの文章が多くなってしまったために、難しく感じていた子どもの姿が見受けられた。

今後は、解説だけでなく「問いかける」場面を増やすことで、子ども自身の考える力を引き出し、興味の幅を広げられるような展示になるよう工夫をしていきたい。

「U-15の考古学」展示資料一覧

所在地	遺跡名	資料名	点数	所在地	遺跡名	資料名	点数
考古学ってなあに?							
福島の縄文時代							
飯館村	日向南遺跡	縄文土器	1	網走町	馬場前遺跡	石鏝	6
飯館村	羽白川遺跡	縄文土器	1	飯館村	羽白川遺跡	石鏝	2
大塚村	桑木部遺跡	縄文土器	2	南相馬市	萩原遺跡	石鏝	1
須賀川市	一斗内遺跡	縄文土器	1	飯館村	上ノ台A遺跡	石鏝	4
会津若松市	野宮西遺跡	縄文土器	1	飯館村	上ノ台A遺跡	埴土	1
会津若松市	北平遺跡	縄文土器	1	南相馬市	赤坂遺跡	打製石斧	1
網走町	馬場前遺跡	縄文土器	1	三春町	仲平遺跡	打製石斧	2
福島市	獅子内	たつき石	1	矢吹町	田町遺跡	小形磨製石斧	2
飯館村	松ヶ平A遺跡	すり石	1	網走町	馬場前遺跡	小形磨製石斧	1
飯館村	羽白川遺跡	すり石	1	浪江町	中平遺跡	磨製石斧	2
福島市	獅子内遺跡	すり石	1	郡山市	荒小路遺跡	磨製石斧	1
網走町	馬場前遺跡	すり石	1	浪江町	一年内遺跡	石鏝	3
飯館村	松ヶ平A遺跡	すり石	1	本宮市	玉置跡	玉置跡	1
飯館村	羽白川遺跡	石皿	1	大塚村	桑木部遺跡	埴土目録	1
福島市	獅子内遺跡	石皿	1	南相馬市	八重丸坂A遺跡	埴土目録	1
飯館村	羽白川遺跡	土俵	5	浪江町	田子平遺跡	勾玉	1
須賀川市	一斗内遺跡	土俵	3	小野町	西山田遺跡	香炉	1
郡山市	荒小路遺跡	土俵	3	浪江町	田子平遺跡	香炉	1
須賀川市	一斗内遺跡	土俵	1	西会津町	福留八咫遺跡	動物遺体	2
須賀川市	一斗内遺跡	土俵	2	南相馬市	柳原遺跡	埴土	7
飯館村	羽白川遺跡	石鏝	6	三春町	仲平遺跡	カラムシ	20
本宮市	高木遺跡	石鏝	3	三春町	仲平遺跡	土子の実	9
飯館村	上ノ台A遺跡	石鏝	2	川俣町	前田遺跡	木製品(木木?)	1
南相馬市	萩原遺跡	石やり	2	前田遺跡	前田遺跡	木製品(漆塗手付容器)	1
飯館村	上ノ台A遺跡	石やり	1				
福島の弥生時代							
会津若松市	一ノ瀬B遺跡	弥生土器	9	南相馬市	天化沢遺跡	太室崎石斧	1
会津坂下町	藤巻遺跡	弥生土器	3	いわき市	白岩原ノ内	太室崎石斧	1
会津若松市	扇敷遺跡	弥生土器	3	南相馬市	南人遺跡	太室崎石斧	1
下郷町	藤ノ人遺跡	弥生土器	1	西会津町	聖徳寺跡遺跡	石鏝	8
南相馬市	天化沢A遺跡	石甕丁木製品	2	会津若松市	一ノ瀬B遺跡	勾玉	4
南相馬市	天化沢A遺跡	石甕丁	1	一ノ瀬B遺跡	菅玉	60	
二本松市	トロミ遺跡	石甕丁	1	会津坂下町	鹿骨遺跡	磨製石	1
南相馬市	天化沢遺跡	ノミ形石鏝	2	会津坂下町	鹿骨遺跡	埴土(磨製石)	1
いわき市	白岩原ノ内	ノミ形石鏝	2	会津坂下町	鹿骨遺跡	埴土(磨製石)	1
南相馬市	天化沢遺跡	扇形片石斧	1	葛川村	木製品(磨り貝)	1	
いわき市	白岩原ノ内	扇形片石斧	1	葛川村	木製品(ハシゴ)	1	
南相馬市	南人遺跡	扇形片石斧	2	葛川村	木製品(タワ)	1	
福島の古墳時代							
小野町	藤合遺跡	土師器	4	矢吹町	白土川遺跡	須恵器	1
須賀川市	高木遺跡	土師器	10	玉川村	栗木内遺跡	須恵器	2
矢吹町	弘法山遺跡	寿石瓦	3	早稲田古墳群	須恵器	4	
玉川村	江平遺跡	菅玉	8	須賀川市	早稲田古墳群	白土	4
白河市	熱内古墳群	勾玉	5	玉川村	江平遺跡	なつめ玉	1
郡山市	止直A遺跡	須恵器	1	南相馬市	桶師河遺跡	石製炊道具	11
いわき市	タタラ山遺跡	須恵器	1				
福島の奈良時代							
南相馬市	大船迫A遺跡	渡出洋	1	相馬市	普光寺遺跡	平瓦	1
南相馬市	島打A遺跡	鉄瓦	1				
福島の奈良時代							
泉崎村	関和久上町遺跡	平瓦(明寺寺)	1	—	—	レプリカ軒瓦	1
泉崎村	関和久上町遺跡	軒瓦	1	—	—	レプリカ軒瓦	1
泉崎村	関和久宮跡遺跡	軒平瓦	1	—	—	聖徳太子の復元人形	1
泉崎村	関和久宮跡遺跡	軒瓦	1	—	—	関和久出土木簡の複製	2
泉崎村	関和久宮跡遺跡	土師器	1	—	—	多賀城跡出土漆絵文書複製	1
玉川村	江平遺跡	須恵器	1	—	—	—	—
玉川村	江平遺跡	土師器	2	泉崎村	関和久宮跡遺跡	平瓦(須恵器)	1
玉川村	扇形遺跡(明寺)	土師器(須恵器)	1	泉崎村	関和久宮跡遺跡	土師器(須恵器)	1
白河市	谷地前遺跡	土師器	1	泉崎村	関和久宮跡遺跡	土師器(須恵器)	1

(3) 指定文化財展 「ふくしまの上古刀」
 会期:令和4年10月22日(土)～12月4日(日)
 (開催日数37日間)

観覧者数:1,804名

1) 趣旨

福島県文化財センター白河館特別収蔵庫に収蔵する古墳時代から中世までの鉄刀を公開するとともに、福島県中通り地域出土の県指定・市指定の鉄刀を展示する。

対人武器の一つである鉄刀は、金銅装や銀象嵌など華やかな装飾が施され、鉄刀所有者の権威を象徴する器物として位置づけられる側面がある。さらに時期を経るごとに美術工芸品としての価値、刀剣の擬人化に見られる現代カルチャーの一部にまで浸透している。

今回の企画展示では、県内の古墳時代墳墓から出土した鉄刀を中心に紹介し、出土鉄刀の意義や魅力を感じさせる展示とした。

2) 展示の構成と内容

①導入

導入として、弥生時代に遡る金属製武器の一つとして出現する刀から、平安時代中期以降に出現する「日本刀」まで期間に存在した反りのない直刀である「上古刀」を解説する。

②王者の刀

福島県内の出土鉄刀は、古墳時代前期(4世紀)に属する古墳から出土したものが最も古く、会津若松市会津大塚山古墳(前方後円墳)や郡山市大安場古墳(前方後方墳)から出土した鉄刀を紹介する。前期古墳の被葬者は、地域を治める首長級の人物(王者)であり、そこに副葬された鉄刀の特徴や意義などを、出土状況や副葬品のセット状況を交えて解説する。

③金の刀

古墳時代後期(6～7世紀)に属する古墳から出土した金銅装大刀を紹介する。金銅装大刀の形式から、頭椎太刀(福島市月の輪山古墳出土頭椎太刀・郡山市湖の上古墳出土頭椎太刀)、環頭太刀(伊達市愛宕山古墳出土単環環頭太刀)を展示する。その他に後期古墳(郡山市蝦夷穴横穴墓・阿弥陀壇古墳、白河市笹内古墳など)華やかな金銅装大刀の構造を解説するとともに、出土した古墳の特徴を交えて被葬者の性格にせまる展示とする。



「ふくしまの上古刀」ポスター



「ふくしまの上古刀」

④群集墳・横穴墓の刀

古墳時代後期に属する群集墳・横穴墓は、在地有力者の集団墓(家族墓)的な一面を持ち、出土数も増加する傾向が認められる。特に銀象嵌が施された鏝・鞘尻金具など刀装具を持つ鉄刀として、当館収蔵の矢吹町弘法山古墳群出土鉄刀・郡山市早稲田古墳出土鉄刀を紹介し、鉄刀所有者層の拡大と在地社会の在り方を解説する。

⑤唐様の刀・北の刀

奈良時代の正倉院様式を備えた鉄刀として、福島県内では須賀川市稲古館古墳出土銅漆作大

「ふくしまの上古刀」展示資料一覧

番号	資料名	遺跡名	遺構名	所在地	所蔵・収蔵場所	備考
1	大刀	大安場古墳	1号墳	郡山市	郡山市教育委員会 大安場史跡公園	県指定重要文化財
2	金銅製頭椎大刀(義道出土)	月ノ輪山古墳	1号墳	福島市	福島市 ヒュームびあ宮畑	福島市指定有形文化財
3	金銅製頭椎大刀(室家出土)	月ノ輪山古墳	1号墳	福島市	福島市 文化財調査室	福島市指定有形文化財
4	金銅製頭椎大刀	酒の上古墳	1号墳	郡山市	郡山市教育委員会 大安場史跡公園	
5	金銅製半龍頭椎大刀	愛宕山古墳	—	伊達市	伊達市 伊達市保原歴史文化資料館	伊達市指定有形文化財
6	円頭大刀	阿弥陀壇古墳群	23号土坑	郡山市	郡山市教育委員会 郡山市歴史資料館	
7	円頭大刀	蝦夷穴横穴墓群	12号横穴墓	郡山市	郡山市教育委員会 文化財調査研究センター	
8	直刀	荒内古墳群	6号横穴	白河市	当館	
9	直刀	荒内古墳群	26号横穴	白河市	当館	
10	大刀	上宮崎B遺跡	15号墳	矢吹町	当館	
11	直刀	江平遺跡	8号墳	玉川村	当館	
12	直刀	高田遺跡	1号墳	新地町	当館	
13	直刀	高田遺跡	1号墳	新地町	当館	
14	直刀	早稲田古墳群	15号墳	須賀川市	当館	
15	直刀	早稲田古墳群	15号墳	須賀川市	当館	
16	鏝(象族)	早稲田古墳群	15号墳	須賀川市	当館	幅2.0cm 厚0.4cm
17	鉄刀	柳坂新田横穴墓群	11号横穴墓	会津若松市	当館	
18	鏝	弘法山古墳群	1号横穴	矢吹町	当館	幅3.9cm 厚0.3cm
19	大刀	弘法山古墳群	1号横穴	矢吹町	当館	
20	大刀	弘法山古墳群	1号横穴	矢吹町	当館	
21	大刀	弘法山古墳群	1号横穴	矢吹町	当館	
22	小刀	弘法山古墳群	1号横穴	矢吹町	当館	
23	小刀	弘法山古墳群	1号横穴	矢吹町	当館	
24	小刀	弘法山古墳群	1号横穴	矢吹町	当館	
25	鏝	弘法山古墳群	1号横穴	矢吹町	当館	幅5.8cm 厚0.5cm
26	磨灰金具	弘法山古墳群	4号横穴	矢吹町	当館	幅4.1cm 厚1.7cm
27	小刀	弘法山古墳群	4号横穴	矢吹町	当館	
28	大刀(龍・龍象族)	弘法山古墳群	5号横穴	矢吹町	当館	
29	磨灰金具(龍象族)	弘法山古墳群	5号横穴	矢吹町	当館	幅3.2～2.4cm 厚0.2cm
30	大刀	弘法山古墳群	6号横穴	矢吹町	当館	
31	大刀	弘法山古墳群	6号横穴	矢吹町	当館	
32	大刀	弘法山古墳群	6号横穴	矢吹町	当館	
33	磨灰金具	弘法山古墳群	6号横穴	矢吹町	当館	幅3.4cm 厚0.4cm
34	小刀	弘法山古墳群	7号横穴	矢吹町	当館	
35	大刀	弘法山古墳群	8号横穴	矢吹町	当館	
36	大刀	弘法山古墳群	8号横穴	矢吹町	当館	
37	大刀	弘法山古墳群	8号横穴	矢吹町	当館	
38	切羽	弘法山古墳群	8号横穴	矢吹町	当館	幅4.5cm 厚0.5cm
39	直刀1	水ノ出横穴墓群	—	古殿町	古殿町教育委員会 ふるさとセンター	
40	直刀2	水ノ出横穴墓群	—	古殿町	古殿町教育委員会 ふるさとセンター	
41	直刀3	水ノ出横穴墓群	—	古殿町	古殿町教育委員会 ふるさとセンター	
42	直刀4	水ノ出横穴墓群	—	古殿町	古殿町教育委員会 ふるさとセンター	
43	直刀5	水ノ出横穴墓群	—	古殿町	古殿町教育委員会 ふるさとセンター	
44	鏝	水ノ出横穴墓群	—	古殿町	古殿町教育委員会 ふるさとセンター	幅9.5cm、厚1.1cm
45	鋳作大刀	牛庭遺跡	—	郡山市	郡山市教育委員会 郡山市歴史資料館	
46	銅漆作大刀	稲古館古墳	—	須賀川市	須賀川市立博物館	県指定重要文化財
47	藤手刀	伝 内山古墳	—	伊達市	伊達市 伊達市保原歴史文化資料館	
48	藤手刀	観音山北横穴群	3号横穴	泉崎村	当館	
49	藤手刀	笹目平遺跡	13号住居跡	矢吹町	当館	
50	藤手刀	北大久保E遺跡	10号住居跡	白河市	当館	
51	直刀	南代遺跡	8号製鉄遺構	橋本町	当館	
52	磨灰金具	トロミ遺跡	1号井戸跡	二本松市	当館	幅3.4cm
53	斬木	沼ノ上遺跡	1号溝跡	湯川村	当館	幅3.8cm 厚0.5cm

刀、郡山市牛庭出土大刀があり、刀の構造的な特徴から正倉院に伝わる大刀との共通性が見られる。陸奥国における在有力者と中央貴族層との関係を伺うことができる極めて示唆的な資料に位置づけられる。

古墳時代から律令制社会への古代社会の変革を経て、大刀の役割の変化に着目し、北東北地域の蝦夷との関わりを示す伊達市内山古墳や観音山北横穴墓から出土した鍔手刀を展示し、中央（都）と北（蝦夷）との関わりにも触れた展示とした。

3) 成果と反省

指定文化財展「ふくしまの上古刀」においては、白河館の特別収蔵庫に収蔵する鉄刀を一室に展示することができた。展示を通して来館者に金属製品や木質遺物などの脆弱遺物の収蔵を目的とした特別収蔵庫の役割を紹介できた点は有意義であった。また、県指定重要文化財である大安場古墳出土大刀や稲古館古墳出土銅漆作大刀をはじめ、県内の有力古墳から出土した金銅装鉄刀を展示し、来館者に古墳時代における鉄刀の意義を考える機会となった。

アンケート結果から、展示内容等については概ね「満足」との評価を得た。特に今回の展示において、刀装具に施された象嵌や彫金など、資料の細部を「単眼鏡」を用いて観察できるようにした点が好評価であった。また、来館者から図録を希望する意見があったことから、今後、図録の作成を検討したい。

(4) ふくしま歴史探訪展

「古代ふくしまの開発—矢吹が原を中心に—」
会期：令和5年1月21日（土）～5月7日（日）
（開催日数90日間）
観覧者数：3,930名

1) 趣旨

矢吹が原は、西白河郡矢吹町を中心に広がるほぼ平坦な台地で、8世紀前半から積極的な開発の手が及んだ。背景は、三世一身法（723年）、百万町歩開墾計画（742年）、墾田永年私財法（743年）の一連の開発奨励策に求められ、ほぼ無人だった台地上に多くの集落が出現し、周囲の谷地で水田が耕作された。展示では、発掘調査で明らかになった集落の姿と、開発の進



「古代ふくしまの開発」ポスター



「古代ふくしまの開発」

展の進展に伴う社会変化に焦点を当てた。

2) 展示の構成と内容

① 台地開発の展開

遺跡分布の時期別動態を示したうえで、開発によって出現した「官衙風建物群のある集落」「仏堂のある集落」「谷地田の営まれた集落」を、日常生活で使用された食器・煮炊き具、遺構配置図、調査写真等により紹介した。

② 有力層の台頭

官衙風建物群は、台地開発のピーク（8世紀末～9世紀前半）に関東地方～陸奥南部でいっせいに出現・普及した豪族居宅であり、開発の

成果が有力層の台頭に結実したことを示す重要な考古学的指標となるのを、陶硯・灰釉陶器ほかの官衙的遺物、各地の代表的な類例図等により解説した。

③民間への仏教信仰の普及

台地開発の進展に伴い、仏教が「神仏習合」の形で民間へ普及し、「仏堂のある集落」はその典型例の1つであることを示した。また、白河郡内では集落内に営まれた複数タイプの寺院がみられ、房総の古代寺院研究でモデル化された、国分寺より下位ランクの「都衝付属寺院・山林寺院—拠点集落内寺院—村落内寺院」の系列関係が明瞭にとらえられるのを、仏教関連遺物、仏堂・伽藍配置図等より解説した。

④墓制の変化

横穴墓群に代わり、簡素な副葬品のみが伴う土壌墓群が採用され、類例が北関東～中部の大規模な官衙風建物群をもつ拠点集落に共通することを、土師器環・刀子ほかの副葬品と、調査写真等により紹介した。

⑤くらしを支えた流通

集落から普遍的に出土する、会津大戸窯跡群産の須恵器と、浜通り沿岸産の製塩土器を取り上げた。とくに後者は、多賀城など諸城柵から出土する松島湾沿岸産の製塩土器と、阿武隈川河口付近で分布を棲み分ける様子をパネルで示し、仙台平野以北とは一線を画す、古代ふくしまの歴史の特性の反映を指摘した。

3) 成果と反省

「地域開発」というオーソドックなテーマを掲げたにもかかわらず、多くの観覧者があった。とくに、矢吹町と周辺地域の来館者が目立ち、地域の歴史の魅力を再認識していただくよい機会になったと思われる。一方で、遺物マニアの方からは、もっと土器の詳しい解説が欲しいという意見が見受けられた。これについては、展示の趣旨を明確にするため意識的に簡略化したところがあるが、考慮する必要があったと思われる。

「古代ふくしまの開発」展示資料一覧

コーナー	遺跡名	資料名	時期	点数	コーナー	遺跡名	資料名	時期	点数	
台地開発の展開	梁木内遺跡	土師器環	9世紀後半	1	有力層の台頭	正倉C遺跡V地点	土師器鉢形(瓦皿)	9世紀前半	2	
	高塚遺跡	土師器環	7世紀前半	2			土師器小型甕壇	9世紀前半	3	
		土師器高坪		1			土師器双輪形燈明皿	9世紀前半	1	
	小文遺跡	土師器環	8世紀前半～9世紀前半	4			土師器香炉	9世紀前半	1	
		土師器環(赤焼き)	9世紀後半	1			須恵器環(播磨)	9世紀前半	1	
		土師器環	8世紀後半	1			土製結締車	9世紀前半	1	
		土師器環	8世紀前半、9世紀前半	2			土師	9世紀前半	1	
		土師器小型甕	8世紀前半、9世紀前半	2			漆付着土器	9世紀前半	1	
		手づくね	8世紀前半	1			江平遺跡	須恵器多嘴瓶	9世紀前半	1
		下宮崎A遺跡	土師器環(播磨)	9世紀前半		1	仏教信仰の普及		土師器環(播磨)	9世紀前半
		土師器環	8世紀後半	1		下宮崎遺跡		土師器環(播磨)	9世紀前半	1
		追石	9世紀前半	1		赤根久保遺跡		土師器環(流部穿孔)	9世紀前半	1
		上宮崎A遺跡	土師器環(刺青)	8世紀後半、9世紀前半	2	墓制の変化	鬼魂遺跡	土師器環	9世紀前半	5
		土師器環	9世紀前半	1			土師器環(播磨)	9世紀前半	1	
			須恵器高台杯	9世紀後半	1	くらしを支えた流通	上古田遺跡	須恵器長頸瓶(大戸産)	9世紀	1
			須恵器甕	8世紀後半	1			須恵器長頸瓶焼台(大戸産)	9世紀	1
			須恵器甕	9世紀前半	1			後原遺跡	須恵器長頸瓶(大戸産)	9世紀
	白山D遺跡	土師器環	10世紀中頃	1			下宮崎A遺跡	須恵器長頸瓶(大戸産)	9世紀	1
		土師器環(赤焼き)	10世紀中頃	1			梁木内遺跡	須恵器長頸瓶(大戸産)	9世紀	2
		土師器高台杯(瓦皿)	10世紀中頃	1			江平遺跡	須恵器甕(大戸産)	9世紀	3
		板状土製品	10世紀中頃	1			須恵器長頸瓶(大戸産)	9世紀	1	
有力層の台頭	正倉C遺跡車地点	円形硯	8世紀後半	1	五石川・天沼遺跡		筒形土器	9世紀前半	2	
	正倉C遺跡V地点	風子硯	9世紀後半	1	白山C遺跡		筒形土器	9世紀後半	2	
		無蓋円形硯	9世紀前半	1	白山E遺跡		筒形土器	9世紀後半	2	
		小型円形硯	9世紀前半	1	梁木内遺跡	筒形土器(骨針)	9世紀後半	1		
		土師器皿(双輪模倣)	9世紀前半	1	江平遺跡	筒形土器(骨針)	9世紀後半	1		
		土師器双耳杯(瓦皿)	9世紀前半	1						

3. 講演会等

(1) 館長講演会

令和4年度は、菊池徹夫館長の退任と石川日出志新館長の就任のため、館長講演会を計6回開催した。また、会場として当館の他に、とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）や白河市立図書館でも開催した。なお、館長講演会の配布資料は、ホームページ上で公開した。



菊池館長最終講演会



石川館長就任講演会

(2) 文化財講演会等

企画展に関連したテーマの講座・文化財講演会、ビデオ上映会を計12回開催した。

今年度は企画展「U-15の考古学」に関連講座として、歴史学習を始める小中学生を対象に、子ども考古学教室を2回開催した。実際に土器の採拓や石器の実測を体験し、考古学に興味を持ってもらうきっかけ作りを企画した。

講演会等実施状況

	演 題	会 場	実施日	受講者数
新奥論の系譜と東北考古学	菊池館長最終講演会 福島会場	「新奥論の系譜と東北考古学」	とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）	令和4年6月4日 130名
	菊池館長最終講演会 白河会場	「新奥論の系譜と東北考古学」	白河市立図書館	令和4年6月5日 98名
	石川館長就任講演会	「考古学の魅力にはまる」	白河館	令和4年8月20日 36名
	第2回館長講演会	「東日本を先導した船島の弥生時代研究」	白河館	令和4年9月25日 30名
	第3回館長講演会	「国宝「黒塚奴隸王」金印の考古学」	とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）	令和4年12月4日 149名
第4回館長講演会	「歴史跡を育む白河市天王山遺跡を事例に」	とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）	令和5年2月5日 350名	
白河市立図書館 「U-15の考古学」	講 座 子ども考古学教室1「土器を学ぼう」	講師 山元 出（白河館職員）	実施日 令和4年7月23日	受講者数 19名
	講 座 子ども考古学教室2「石器を学ぼう」	門前秀典（白河館職員）	令和4年8月16日	19名
	講演会 ふくしまの上古刀剣遺跡講演会1 「伊達市愛宕山古墳出土の短冊早瀬人形について」 「福島県出土身装束大刀の所有者について」	高橋白一（伊達市教育委員会） 福田秀生（白河館職員）	令和4年10月29日	33名
	講演会 ふくしまの上古刀剣遺跡講演会2 「東北日本の古墳時代葬儀付大刀とその所有者」	菊地芳朗（福島大学教授）	令和4年11月26日	39名
	講演会 古代ふくしまの開発関連講演会1 「大地の開発、他地の開発」	菅原祥夫（白河館職員）	令和5年1月22日	39名
	講演会 古代ふくしまの開発関連講演会2-製鉄をめぐる古代ふくしまと近江の諸関係 「多賀城の改修と近江国府」 「製鉄をめぐる古代ふくしまと近江-豊後国から仲麻呂政権まで」 「古代土器と近江の鉄-豊後国から仲麻呂政権まで」	吉野 武（宮城県教育委員会文化財課） 菅原祥夫（白河館職員） 大橋台秀（元白河市立安土城考古博物館次長）	令和5年3月11日	118名
	講演会 講演会録画「菊池館長最終講演会」		実施日 令和4年6月18日	受講者数 4名
講演会録画「石川館長就任講演会」		令和4年8月14日	9名	
講演会録画「第2回館長講演会」		令和4年10月2日	6名	
講演会録画「第3回館長講演会」		令和4年12月11日	9名	
講演会録画「古代ふくしまの開発関連講演会1」		令和5年1月28日	10名	
講演会録画「古代ふくしまの開発関連講演会2」		令和5年3月18日	8名	

1) 講座

①子ども考古学教室1「土器を学ぼう」

企画展「U（アンダー）15の考古学」の関連企画で、白河館山元出を講師として、会場に展示した遺物を用いて、縄文土器や時期区分、型式、施文方法などについての解説をした。また、参加者は土器片の観察やスケッチ、拓本体験などを行った。

②子ども考古学教室2「石器を学ぼう」

企画展「U（アンダー）15の考古学」の関連企画で、白河館門脇秀典を講師として、人類と石器の歴史などの解説や石器の観察やスケッチなどの体験を行った。



「子ども考古学教室1」

2) 講演会

③ふくしまの上古刀関連講演会

指定文化財展「ふくしまの上古刀」に展示した鉄刀を中心に、鉄刀出土の意義とその所有者像に迫る講演会を2回開催した。

講演会1は、伊達市教育委員会の高橋信一氏を講師に迎え、伊達市指定有形文化財である愛宕山古墳出土の金銅製単龍環頭大刀を解説するとともに、その所有者はヤマト政権の大豪族との密接な繋がりをもつ可能性を示した。

白河館福田秀生が県指定重要文化財の須賀川市稲古館古墳出土銅漆作大刀と郡山市牛庭出土銀作大刀に着目し、奈良時代に陸奥国経営に関わり正倉院様式の大刀を拝領した地方官人について解説した。

講演会2は、福島大学の菊地芳朗教授を講師に招き、東日本における古墳時代の裝飾付鉄刀の特徴を網羅的に解説するとともに、裝飾付鉄

刀の出土事例を分析し、年代とともに変化する鉄刀所有者の政治的・地域的变化を解き明かす講演会となった。



「ふくしまの上古刀関連講演会2」

④古代ふくしまの開発関連講演会

企画展「古代ふくしまの開発—矢吹が原を中心に—」に関連して講演会を2回開催した。

講演会1は、白河館の菅原祥夫が「台地の開発、低地の開発」と題して、古代ふくしまの開発には、関東の台地開発の影響で展開した中・浜通り、北陸の低地開発の影響で展開した会津盆地の2タイプがあり、矢吹が原の事例は前者の典型的モデルに位置づけられるのを解説した。

講演会2は、講師3名を招聘して「製鉄をめぐる古代ふくしまと近江の諸関係」の講演会を行った。

まず、宮城県教育庁文化財課の吉野武氏は、「多賀城の改修と近江国府」と題して、藤原仲麻呂の四男朝狩が改修した多賀城政庁第Ⅱ期と、藤原仲麻呂が創建した近江国府の類似性を証明



「古代ふくしまの開発関連講演会1」

し、この親子関係の影響が古代ふくしまの製鉄に及んだのを示唆した。次いで、白河館の菅原祥夫は「製鉄をめぐる古代ふくしまと近江の諸関係—継体朝から仲麻呂政権まで」と題して、継体朝の前史が背景となって、天智朝期に近江の製鉄技術体系が宇多・行方郡へ直接導入され、藤原仲麻呂政権期の大規模展開につながった過程を、瓦の情報伝播などと絡めた考古学的検討から明らかにした。最後に、元滋賀県立安土城考古博物館次長の大橋信弥氏は、両名の論点を発展させ、「古代王権と近江の鉄—継体朝から仲麻呂政権まで」と題して、東アジア的視点から総括を行った。

各発表後、参加した関連研究者のコメントを交えながら、講師3名による意見交換を行った。



「古代ふくしまの開発関連講演会2」

3) ビデオ上映会

館長講演会及び文化財講演会の開催に当たり、受講者の定員を設けるなど感染症対策を実施した。さらに当館以外に、とうほう・みんなの文化センター(福島県文化センター)を会場として開催した。当館利用者の要望もあり、講演会の録画映像上映会を計6回開催した。

4. 体験学習・イベント

令和4年度も、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策を講じながら体験学習を実施した。

体験学習の実施に当たり、基本的な感染症対策(マスク着用、手指消毒)を行うとともに、職員や参加者どうしの接触や近距離での活動が最小限となるよう制限し、職員による体験補助を極力行わないなど非接触での対応に努めた。

具体的には、少人数(同居家族)での対応、動線を含めた職員、参加者の活動範囲の設定、道具の受け渡しや共有を控えるなどを行った。さらに、室内の換気と道具類の消毒を徹底した。職員はフェイスシールドを着用して対応した。

(1) いつでもできる常時体験

1) 個人利用者対象メニュー

常設の体験スペースである体験活動室を中心に、個人の来館者を対象に実施しているメニューである。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大状況に注視しつつ、「勾玉づくり」「火おこしに挑戦」「月替わりメニュー」を通年で提供することができた。

「勾玉づくり」と「火おこしに挑戦」は前年度と同様に曜日替わりとし、「勾玉づくり」は講堂や研修室等を使用し、受け入れ人数を最大6組(1組最大2人)と増やしての時間制で実施した。「火おこしに挑戦」は体験広場南口のテラスを会場とし、1名ずつの入替え制とした。「まほろんクイズラリー」は、展示に係る問

個人利用者対象メニュー実施状況

実施期間	内容(体験料)	参加人数
4/1~4/29	拓本館バッジづくり(150円)	97名
5/1~5/30	石器展アウテサリづくり(150円)	157名
6/1~6/30	匂い袋づくり(250円)	31名
7/1~7/31	團扇しらむづくり(100円)	130名
8/1~8/31	段状耳飾りづくり(200円) 土偶おほかおローチづくり(100円)	37名 134名
9/1~9/30	どばん風ミラーづくり(100円)	75名
10/1~10/31	墨書体験しよう(100円)	100名
11/1~11/30	組紐ストラップづくり(200円)	142名
12/1~12/26	正月飾りづくり(200円)	73名
1/5~1/31	風づくり(200円)	68名
2/1~2/27	象眼ペンダントづくり(100円) つるし籠づくり(200円)	69名 37名
3/1~3/31	瓦ペーパーウェイトづくり	42名
季節実施メニュー	まほろんクイズラリー(春)4・5・6月(無料)	210名
	まほろんクイズラリー(夏)7・8・9月(無料)	250名
	まほろんクイズラリー(秋)10・11・12月(無料)	323名
	まほろんクイズラリー(冬)1・2・3月(無料)	144名
通年実施メニュー	勾玉づくり(有料)	768名
	火おこしに挑戦(無料)	821名
		合計 3,708名

題を解きながら屋内外を巡るメニューで、3か月ごとの春夏秋冬の4回に内容を変えて実施した。正面玄関入口に回答用紙、プロムナード中央に解答と特典シールを置き、職員との接触なしで参加できるようにした。

「月替わりメニュー」は、収蔵資料や季節の行事に関連させた体験学習で、有料で実施した。感染症対策として、年度当初は参加者を1組(最大2名)としたが、令和5年年2月より2組(最大4人)ずつの対応とした。

有料の体験学習は、収蔵資料や企画展示の内容を題材として、石匙をイメージした「石器風アクセサリづくり」や、「土偶おこおブローチづくり」等を実施し、参加者からは好評を博した。

その他に、無料の体験学習メニューとして、持ちかえりできるペーパークラフト等を提供した。



つるしびなづくり



勾玉づくり

個人利用者対象メニューの内容と体験者数は別表のとおりである。令和3年度の体験者数は1,870名に対し、今年度は3,708名と2倍近く増加した。

2) 団体利用者対象メニュー

事前予約の必要な団体利用者の体験学習メニューについて、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、体験学習を中止としていたが、本年度は「勾玉づくり」と「昔の道具を知ろう」の2種類を再開した。

(2) 募集型体験学習

1) 実技講座

考古資料や福島県内を中心とした伝統文化に関連した「モノづくり」を通して、原始・古代の技術を体験することを目的とした、事前申込制の個人向けの体験講座である。令和4年度は6講座を実施した。

企画展「U-15の考古学」に関連し、小中学生を対象とした実技講座「土器をつくろう」、「土偶をつくろう」を企画した。当館収蔵の土器や土偶を観察しながら製作することができた。

その他、前年度から引き続き外部講師を招聘しての「大塚相馬焼に挑戦」や古代のガラス玉づくりの実験、古墳時代の土師器の坏や甕などを製作する「土師器づくり」を実施した。

また、前年度からコロナ禍での需要を期待してネット配信での「おうちで土器づくり」を今年度で実施した。今年度は特定の土器をモデルとせず参加者が自由な形で土器を作る内容としたこともあり、参加者が大幅に増加した。

実技講座実施状況

講座名	実施日	参加人数
大塚相馬焼に挑戦①土型・印花づくり	令和4.5.29	12名
大塚相馬焼に挑戦②皿づくり成形	令和4.6.26	12名
U-15実技講座「土器をつくろう」	令和4.7.30-31	19名
U-15実技講座「土偶をつくろう」	令和4.9.10-11	15名
ガラス玉づくり実験①講型製作、ガラス勾玉の焼成	令和4.11.12	5名
ガラス玉づくり実験②講型を用いたガラス玉焼成実験	令和4.12.10	5名
土師器づくり①成形・調整	令和5.1.25-2.1	延20名
土師器づくり②野焼き	令和5.3.19	5名
おうちで土器づくり		54名
	合計	127名

2) まほろん森の塾

まほろん森の塾は、小・中学生を募集対象として実施する通年型の体験学習講座である。昔のくらしや技術を体験することにより、歴史をわかりやすく、親しみやすく学習することを目的にしている。開館から続く講座で、令和4年度は22期生として塾生を迎えることができた。

今回は文化財に関心を持ってもらい、将来の文化財への担い手を育てていこうという観点から、「街道」をテーマにフィールドワークを中心に全5回の講座として実施した。初回は街道の成り立ちについて学んだ。第2回では昔の履物「草履」を不要となった布を使って製作した。第3回では石阿弥陀の一里塚をはじめとする当館周辺の文化財、第4回では白河市中心市街地の旧奥州街道を歩きながら周辺の文化財をめぐり、課題に取り組んだ。第5回ではフィールドワークの成果を文化財マップにまとめ、発表会を行った。参加者からは「街道沿いには意外とたくさん古い建物があることがわかった」、「車で移動した時には気づかないけれど、歩いてみていろいろなおもしろいことがわかった」との感想があり、地元に住んでいても気づきにくいことに触れる良い機会となった。

まほろん森の塾実施状況

内容	実施日	参加人数
第1回 入館式・田植え・小豆の種まき	令和4.6.12	8名
第2回 布ぞうりづくり	令和4.7.10	8名
第3回 まほろん周辺の文化財見学	令和4.9.4	7名
第4回 小峰城周辺の文化財見学	令和4.10.23	8名
第5回 文化財マップづくり	令和4.11.27	7名
合計		38名

※なお、令和5年1月21日に、最終回欠席者1名に対し補講を行った。



まほろん森の塾

また、ボランティアや見学の文化財の土地所有者など文化財の担い手となる地元の人との交流もすることもできた。文化財により親しみを覚えることが出来たと評価できる。

(3) 特別体験・イベント

1) 特別体験

ゴールデンウィークや夏休み期間は、期間限定の体験学習メニューを提供する特別体験として、来館者サービスの向上を図った。

ふくしま海洋科学館(アクアマリンふくしま)の移動水族館を招いてのイベント「アクアラバンがやってくる」に併せ、「まほろん感謝デー」に加え、「土偶のおおブローチ」、モミギリを使用しての火おこし体験「モミギリでの3分間火おこしチャレンジ」、「まほろんボランティアによる植物観察会」を2日間限定メニューとして提供した。

特別体験・イベント実施状況

イベント名	実施期間	参加人数
ゴールデンウィーク特別体験	令和4.29-5.8	733名
夏休み特別体験	令和4.7.20-8.21	1,468名
土偶の日イベント「宮小路土偶の健康診断」	令和4.10.8-16	36名
まほろんぬりえコンクール	令和4.11.1-30	208名
アクアラバンがやってくる	令和4.11.5-6	500名
まほろん感謝デー	令和4.11.5-6	426名
合計		3,371名

※まほろんぬりえコンクールは77名の応募があった。

2) まほろんぬりえコンクール

常設展示室「縄文時代」のコーナーの風景のぬりえを募集し、展示するとともに来館者に気



まほろんぬりえコンクール

に入った作品について投票してもらった。得票数が多かった作品や館長が選んだ作品を入賞作品とし、受賞者には記念品を進呈した。受賞しなかった参加者にも参加賞を進呈した。

3) 土偶の日イベント

荒小路遺跡出土土偶のX線CT画像を公開するとともに、特別展示室前にフォトスポットを設け、自由に撮影できるようにした。

(3) 館外体験学習事業

『おでかけまほろん』として、県内の学校や社会教育施設における体験学習を支援するための事業である。まほろんへの来館が困難であるなどの理由で申請のあった学校や諸施設に対して、白河館職員が収蔵資料や体験学習資材を携えて出向き、文化財や地域の歴史に対する理解を深めることを目的としている。

体験活動の内容は、実施校・施設で事前に担当者と打合せを行い、「土器や石器を観察しよう」を必須として、感染症対策を考慮しながら「火おこしに挑戦」「勾玉づくり」の他、「ミニチュア埴輪づくり」などを加えて実施した。



おでかけまほろん



おでかけまほろん

おでかけまほろん実施状況

№	学校名	学年・科目	体験内容	実施日	参加人数	
1	郡山市立日和田小学校	小6, 社会科	土器・石器観察, 勾玉づくり, 火おこし	5月12日(木)	83名	
2	いわき市立小玉小学校	小6, 社会科	学校周辺の遺跡について, 土器・石器観察, 火おこし	5月26日(木)	20名	
3	田村市立船引小学校	小6, 社会科	学校周辺の遺跡について, 土器・石器観察, 火おこし	6月9日(木)	119名	
4	二本松市立二本松南小学校	小6, 社会科	学校周辺の遺跡について, 土器・石器観察, 火おこし	6月23日(木)午前	45名	
5	本宮市立岩根小学校	小6, 社会科	学校周辺の遺跡について, 土器・石器観察, 火おこし	6月23日(木)午後	70名	
6	相馬市立雁丘小学校	小6, 社会科	学校周辺の遺跡について, 土器・石器・鉄片観察, 火おこし	6月30日(木)	85名	
7	小野町立小野小学校	小6, 社会科	学校周辺の遺跡について, 土器・石器・鉄片観察, 火おこし	7月14日(木)	78名	
8	会津若松市 東公民館	小1~6, 放課後子ども教室	会津若松市周辺の遺跡について, 土器・石器観察, ミニチュア埴輪づくり, 火おこし	7月31日(日)	23名	
9	南相馬市立上真野小学校	小6, 社会科	学校周辺の遺跡について, グループ学習, 土器・石器観察, 火おこし	9月8日(木)	17名	
10	郡山市立小原田小学校	小6, 社会科	学校周辺の遺跡について, 土器・石器観察, 勾玉づくり	9月22日(木)	76名	
11	福島県立会津支援学校 小学部	小5-6, 社会科	学校周辺の遺跡について, 土器・石器観察, 火おこし	10月16日(木)午前	18名	
12	福島県立会津支援学校 高等部	高3, 総合	学校周辺の遺跡について, 土器・石器観察, 火おこし	10月16日(木)午後	37名	
13	会津若松市 北会津公民館	小1~6, 小学生体験教室	会津若松市周辺の遺跡について, 土器・石器観察, ミニチュア埴輪づくり, 火おこし	10月16日(日)	16名	
14	桜の母学院小学校	小6, 社会科	学校周辺の遺跡について, 土器・石器観察, 勾玉づくり	10月27日(木)午前	20名	
15	福島市立平田小学校	小5-6, 社会科	学校周辺の遺跡について, 土器・石器観察, 火おこし	10月27日(木)午後	14名	
16	双葉町立双葉南・北小学校	小5-6, 社会科	双葉町の遺跡について, 土器・石器観察, 火おこし	11月10日(木)	16名	
17	桑折町立平田福寿小学校	小6, 社会科	学校周辺の遺跡について, 土器・石器観察, 勾玉づくり	11月17日(木)	13名	
18	会津美里町 本郷学習センター	小1~6	会津美里町の文化財・遺跡について, 土器・石器観察, 火おこし, 勾玉づくり	11月20日(日)	12名	
19	二本松市 石井公民館	高齢者, 石井長寿大学	二本松市石井地区の文化財・遺跡について, トロモ遺跡の出土遺物観察	12月15日(木)	36名	
					合計	798名

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページ等による情報発信

令和4年度のホームページアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は33,413件であった（前年度：35,272件）。なお平成13年（2001年）7月14日のホームページ開設以来の累計アクセス数は、92万件を超えた。

ホームページアクセス数

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	2,999	895,474
5月	2,999	898,473
6月	3,358	901,831
7月	2,963	904,794
8月	3,210	908,004
9月	2,256	910,260
10月	2,849	913,109
11月	2,945	916,054
12月	2,381	918,435
1月	2,412	920,847
2月	2,554	923,401
3月	2,487	925,888
合計	33,413	

2. データベースによる情報提供

◆全国遺跡報告総覧

埋蔵文化財の発掘調査報告書を全文電子化して、インターネット上で検索・閲覧できる「全国遺跡報告総覧」に福島県教育委員会が刊行した文化財調査報告書、福島県文化財センター白河館が刊行した刊行物等を掲載している。令和5年3月31日時点で、文化財調査報告書187件、白河館の刊行物等110件のファイルを公開している。

3. SNSによる情報発信

令和2年度から、SNSの運用を正式に開始した。運用しているSNSは、「Instagram」、「Youtube」の2つである。

◆Instagram

毎週水曜日・土曜日の2回の更新を基本として運用している。記事は職員の輪番制で作成し、展示や体験活動の様子を公開している。令和5年3月31日時点でのフォロワー数は989名である。

◆Youtube

企画展関連動画を中心に発信している。令和5年3月31日時点でのチャンネル登録者数は90名、動画の再生回数は6,023回である。

4. まほろん通信の発行

令和4年度は年4回発行した。発行日は4月20日・7月13日・10月19日・1月25日で、各回4,000部を発行し、遺跡報告総覧にも掲載した。概要は以下のとおりである。

- (1) まほろん通信Vol.83（春号4月20日発行）
 - ・2022年まほろん実技講座ラインナップ特集
 - ・施設紹介とみおかアーカイブ・ミュージアム
 - ・団体見学のご案内ーみんなでLET'S GO TO THE まほろんー
- (2) まほろん通信Vol.84（夏号7月13日発行）
 - ・菊池徹夫館長 退任のご挨拶
 - 「まほろんの11年間をふりかえって」
 - ・令和4年度取蔵資料展「U-15の考古学」担当インタビュー「これから歴史の学習を始めることもたちあつまれー!」
 - ・まほろんおしごと紹介 Part1学芸員
 - ・オススメ!夏の体験活動室メニューのご紹介
- (3) まほろん通信Vol.85（秋号10月19日発行）
 - ・石川新館長就任あいさつ
 - 「館長就任にあたって」
 - ・みどころ紹介 令和4年度指定文化財展「ふくしまの上古刀」
 - ・まほろん感謝デー・移動水族館アクアラバン
 - ・まほろん めりえコンクール
 - ・アンケート結果発表!!
 - 「あつまれ!縄文どうぶつ森」
 - ・まほろんおしごと紹介 Part 2総務
- (4) まほろん通信Vol.86（冬号1月25日発行）
 - ・企画展紹介ふくしま歴史探訪展「古代ふくしまの開発ー矢吹が原を中心にー」
 - ・「まほろんめりえコンクール」受賞者発表
 - ・まほろん森の塾 活動報告
 - ・まほろんおしごと紹介Part 3アテンダント

6 文化財に関する研修及び技術支援

1. 概要

文化財関係業務を担当する市町村等の職員を対象に、文化財の保護・活用に必要な知識と技術を習得するための研修を行った。

令和4年度は、基礎研修2回と専門研修2回開催した。基礎研修は、文化財保存活用地域計画策定の実例に関する文化財保護行政実務者研修、X線CT等を用いた文化財の構造調査に関する文化財分析研修を実施した。なお、文化財保護行政実務者研修はオンライン併用で開催した。

専門研修は、地域の文化財の収蔵・保管及び整理に関する文化財保護指導者研修、3次元レーザー計測器を用いた遺物実測に関する専門技術研修を実施した。

その他に、市町村からの求めに応じて、館内外で臨時的に開催する特別研修を実施した。

技術支援として、市町村の文化財担当職員等を対象として、当館職員を現地に派遣して文化財の保存に関する指導や助言を実施した。

2. 研修実施状況

(1) 基礎研修

基礎研修として、市町村等の文化財担当職員を対象に文化財の保護・活用、活用に向けた調査をテーマとし、事例報告と文化財の保護・活用に向けた意見交換を行った。

①「文化財保護行政実務者研修」

平成31年の文化財保護法改正で、都道府県による文化財保存活用大綱の策定、市町村による

文化財保存活用地域計画の作成が制度化された。福島県では令和2年3月に文化財保存活用大綱が策定された。

本研修では、県内で文化財保存活用地域計画の認定第1号となった白河市の事例について、白河市建設部文化財課小野英二氏による報告を行った。また、本研修はオンライン併用で開催し、文化財保存活用地域計画を作成中の自治体からの活発な意見交換が見られた。

②「文化財分析研修」

本研修は、非破壊分析による文化財の構造調査をテーマとし、X線CT等分析機器の文化財調査への活用を目的とした。

福島県ハイテクプラザの矢内誠人氏によるX線CT機器の特徴に関する講義を行った。その他に白河館福田秀生による福島県ハイテクプラザの協力を得て、白河館が実施しているX線CTを用いた文化財の非破壊構造調査の実例を紹介した。また白河館勝川若奈により3次元計測機器を用いた文化財の調査例やデジタルアーカイブとしての活用事例を報告した。



文化財分析研修

(2) 専門研修

①「文化財保護指導者研修会」

市町村の文化財保護審議委員等を対象とした研修会で、令和4年度は会津坂下町を会場とした。

1日目は、福島県教育庁文化財課五十嵐祐介氏により「県内の無形の文化財等の現状について」、会津坂下町埋蔵文化財センター吉田博行氏による「会津坂下町埋蔵文化財センターの整備」、福島県立博物館内山大介氏による「変貌



文化財保護行政実務者研修

する地域の記録から文化財の保護へ一戦後の民俗文化財と山口弥一郎」の講義を行った。

2日目は、会津坂下町埋蔵文化財センターの展示施設及び収蔵施設等の視察、国指定史跡「鎮守森古墳・亀ヶ森古墳」の見学を行った。



文化財保護指導者研修会

②「専門技術研修」

（公財）福島県文化振興財団遺跡調査部今野徹氏による「3次元レーザー計測機器を用いた遺物実測」と題して、埋蔵文化財発掘調査報告書作成業務における遺物実測への応用について、



専門技術研修

文化財研修実施状況

区分	研修名	講師等	実施日	受講者数	場所
基礎研修	文化財保護行政実務者研修	小野英二（白河市建設部文化財課）	令和4年7月15日	20名	白河館 オンライン併用
	文化財分析研修	矢内誠人（福島県ハイテクプラザ） 福田秀生（白河館） 藤川莉奈（白河館）	令和4年8月26日	4名	白河館
専門研修	文化財保護指導者研修会	五十嵐祐介（福島県教育庁文化財課） 古田博行（会津坂下町教育委員会） 内山大介（福島県立博物館）	令和4年10月20日 21日	延べ 121名	会津坂下町
	専門技術研修	今野 徹（福島県文化振興財団遺跡調査部）	令和5年1月20日	2名	白河館

実測作業に係る効率化や経費面に踏み込んだ実務的な講義を行った。

（3）特別研修

館外で臨時的に特別研修を1回実施した。白河市からの依頼で、天王山遺跡から出土した石器の石質鑑定を12月7日に白河市歴史民俗資料館において実施した。

3. 技術支援状況

市町村の文化財担当職員対象とした技術支援を3自治体計4回行った。

このうち1件は、「文化財に係る災害時の応援活動支援に関する協定」に基づく支援要請による被災文化財への技術支援である。そのほか出土資料に関する分析や収蔵資料の保存館環境整備などの支援を行った。

また、川俣町前田遺跡出土の脆弱遺物の保管及び保存処理に係る指導を1回実施した。



技術支援実施状況

7 文化財の活用に関する調査研究

1. 文化財の調査

白河館に収蔵されている資料について、X線CT等による詳細な観察と理化学的分析による材質調査を実施する事業である。

令和4年度は、新田遺跡出土土偶や筑内古墳群出土金銅製杏葉、弘法山古墳群出土ガラス玉・琥珀玉ほかのX線CT撮影による構造調査を実施した。

2. 体験学習等における試み

U-15実技講座「土偶をつくろう」において、X線CT装置を用いた土偶の構造調査の成果を活用した。また、土偶の日（10月9日）関連イベントとして「荒小路土偶の健康診断」を開催し、ビューワーソフトを用いてX線CT画像を利用者が自由に閲覧できるものとした。その他、ガラス玉の製作実験など、考古学や民俗学等の成果を加味した体験学習メニューを考案して実施した。

3. 文化財等に関する情報収集

(1) 研修会等への参加

文化庁や奈良文化財研究所、福島県博物館連絡協議会が主催する研修会等に参加し、文化財に関する最新の情報収集を行った。

(2) アンケート調査の実施

市町村文化財行政の現状と課題を把握するため、アンケート調査を3回行った。

4. 研究紀要

文化財の活用や調査研究の成果を『研究紀要21号』に収録し、500部作成して関係機関に送付し、ホームページで公開した。

8 出土文化財の保存処理

令和4年度は、福島県教育委員会が実施した発掘調査により出土した木質・金属質遺物等について、劣化防止等業務、保存処理業務、分類・データベース入力業務を実施した。

1. 劣化防止等業務

次の方法により、1,040件の劣化防止措置を行った。

(1) 木質遺物

656件の劣化防止措置を行った。

水浸保存を図っている木質遺物(以下、水浸け遺物)は、劣化状態等の確認を行い、バクテリア等の劣化を促進させる付着物が発生している遺物については、筆等による除去及び洗浄を行った。洗浄を終えた水浸け遺物は、新たな保存液を入れなおし、可能な限り脱気した状態で封入した。

また、水浸け遺物の劣化状態を客観的に把握するため、推定含水率を測定した。

(2) 金属質遺物

303件の劣化防止措置を行った。

脱酸素剤封入済みの金属遺物について、遺物の形状変化及び無酸素状態指示剤の変色度合いの確認を行った。無酸素状態指示剤に青色の変色が確認された遺物は、脱酸素剤及び無酸素状態指示剤を交換した。

その他、腐食(錆)の進行の要因となる付着物(土壌や錆)を除去するクリーニング作業を行った。

(3) 動植物遺存体

木質遺物と同様の判断基準に従い81件の劣化防止措置を行った。

劣化状態及び現行数の再確認作業を行い、その結果をもとに台帳整理を行った。

劣化防止措置実施状況

劣化防止数		
1,040件		
内訳	木質遺物	656件
	金属質遺物	303件
	その他(動植物遺存体)	81件

2. 保存処理業務

113点の保存処理を行った。このうち、白河館の施設・設備で処理を行うことが困難な11点(双子遺跡ほか出土木質遺物4点、早稲田古墳群ほか出土金属質遺物7点)については専門業者に委託した。その他の102点(大猿田遺跡ほか出土木質遺物47点、早稲田古墳群ほか出土金属質遺物55点)については以下の手順により白河館内で保存処理を行った。

(1) 木質遺物

木質遺物の保存処理は、その資料の樹種、状態、器種等によって処理方法を変える必要がある。そのため、ポリエチレングリコール含浸法と凍結真空乾燥法で処理可能な資料を選択している。

ポリエチレングリコール含浸法は、①事前調査②樹種同定③脱鉄④薬剤含浸⑤取り上げ・固化⑥表面処理⑦記録作成の工程で行う。

凍結真空乾燥法は、①事前調査②樹種同定③脱鉄④薬剤含浸⑤予備凍結・真空乾燥⑥表面処理⑦記録作成の工程で行う。

なお、令和4年度は真空凍結乾燥法による木質遺物の保存処理は行っていない。

(2) 金属質遺物

金属質遺物は全て青銅製であったため、①事前調査②クリーニング③安定化処理④記録作成の工程で保存処理を行った。

事前調査では遺物の現状確認のほか、X線透過撮影による構造等調査、蛍光X線分析による定性分析等を行った。

保存処理業務実施状況

保存処理数	
113件	
内訳 木質遺物	51件
金属質遺物	62件

3. 分類・データベース入力業務

データベースの入力および分類業務は、報告書未掲載の鉄製品についての分類データベースを600件入力した。

9 ボランティア活動の支援

1. 募集

令和4年度は、ボランティアの申し込み資格を①令和4年4月1日現在で16歳以上、②無償で活動できる方として募集した。

2. 登録

ボランティアの名称は『まほろんボランティア』とし、登録形態は「個人登録ボランティア」としている。令和4年度のボランティア登録者数は33名である。

まほろんボランティア登録状況

令和4年度登録者数	33名
内訳	
1. 最年少	22歳
2. 最年長	85歳
3. 平均年齢	62歳
(平成5年3月31日現在)	

3. 活動内容

屋内展示・野外展示の案内・解説、展示業務への参加、イベントの自主企画及び運営、体験学習器材の製作等、野外展示施設の火焼き燻蒸等を行った。

このほか、企画展等に関連した研修会を3回実施した。

4. 支援体制

白河館では学芸課にボランティア担当職員を配置し、活動内容の調整を行うとともに、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休憩場所の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。また、令和4年度は「まほろんボランティア連絡会」を4回開催し、ボランティア活動の意見交換を行った。



野外展示及び植物観察会

10 その他

1. 年報の発行

令和3年度の館の管理運営実績をまとめた『年報～令和3年度実績～』を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に配布した。

2. 運営協議会の開催

館長の諮問機関として、福島県文化財センター白河館運営協議会を組織し、会議を開催した。

なお、令和4年度の委員6名は次のとおり。

- ・日下部善己：元二本松市立岳下小学校長、再任
- ・柳沼 賢治：福島大学客員教授、再任
- ・平出美穂子：元郡山女子大学准教授、再任
- ・加藤 正行：西白河小中学校校長連合協議会長
- ・根本 純子：白河市建設部文化財課長
- ・小野 保：国立那須甲子青少年自然の家所長

(1) 第1回運営協議会

開催日：令和4年10月22日（土）

場 所：講堂
議 事

- ・令和3年度白河館の事業実績について
- ・令和4年度白河館事業計画の変更について
- ・令和4年度白河館の運営状況について
- ・その他

(2) 第2回運営協議会

開催日：令和5年3月11日（土）

場 所：講堂
議 事

- ・令和4年度白河館の運営状況について
- ・平成5年度白河館の事業について
- ・その他

3. 博物館実習

県内の大学生や、県内出身者で県外の大学に通う大学生を対象として、館内において博物館実習を行った。

令和4年度は、県内外の大学生6名を受け入れ、博物館等における資料の取扱い方法や展示業務に関する実習を行った。

当館の収蔵資料を用いて展示実習を行い、その成果を「会津盆地の遺跡から読み解く地地域

間交流」として常設展示室内において、令和4年9月17日～令和5年6月27日まで展示した。



博物館実習

4. 産業現場実習

令和4年6月7日～10日に福島県立白河実業高等学校より2名の生徒を受け入れ、職業体験実習を実施した。実習内容として、野外展示の整備補助や体験活動の準備等を行った。

5. 被災ミュージアム再興事業

福島県教育委員会からの委託事業として、被災ミュージアム再興事業を実施した。

原子力災害による避難指示区域内にあたる大熊町と双葉町の資料館等から白河館仮保管施設に移送された文化財について、資料の修理安定化、データベース入力、応急的劣化防止作業などを実施した。

6. 他機関との連携

自治体・教育普及機関・研究機関等と連携して、以下の事業を実施した。

(1) まほろん移動展の実施

- 1) 「戦後ふくしまの考古学—福島県学生考古学会の発足から福島県史の刊行まで—」
内容：令和3・4年度に実施した同名の企画展をダイジェスト的に展示した。会期中の11月19日(土)には関連講座を開催した。
会期：令和4年11月5日(土)～11月30日(水)

場所：福島県立図書館

観覧者数：10,967名

(2) ふくしま海洋科学館との連携

1) 移動水族館(アクアラバン)開催

実施日：令和4年11月6日(土)・11月7日(日)「まほろん感謝デー」

場所：白河館正面玄関前

観覧者数：504名



移動水族館 (アクアラバン)

(3) 館外イベントへの出展

生涯学習施設や地元機関が主催する行事に職員が出向き、収蔵資料を活用したミニ展示を実施した。

1) なすビジ秋まつり

実施日：令和4年11月13日(日)

場所：栃木県那須町那須高原ビジターセンター

参加者数：101名



なすビジ秋まつり

(4) その他

1) 「文化財に係る災害時の応援活動支援に関する協定」に基づき、災害発生時の情報提供や技術支援などを行った。また、「福島県被災文化財等救援本部」の一員として東日本大震災による被災文化財保護活動記録集作成等に参加したほか、「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」等の活動を支援した。

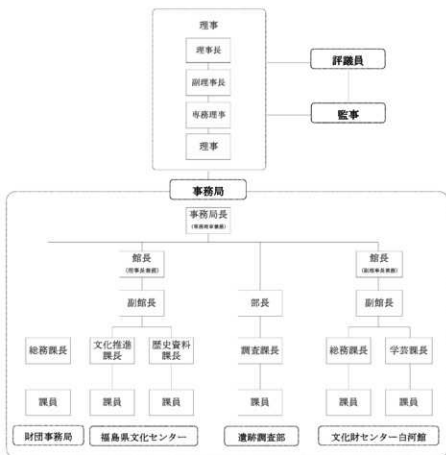
2) 日本博物館協会のWebサイトと月刊誌『博物館研究』に白河館に関する情報を提供した。

また、福島県博物館連絡協議会の理事館として、県内博物館等の連携強化に努めた。

3) 白河観光物産協会やNPO法人カルチャーネットワーク等と連携し、白河館の情報を発信した。また、しらかわにぎわいプロジェクト実行委員会(事務局：栗市白河)主催の「白河の魅力再発見スタンプラリー」にデジタルスタンプスポットとして参加した。

第3章 令和4年度の組織と管理運営費

1 組織



職員名簿

職名	氏名	職名	氏名	
館長	石川日出志	主任学芸員	鶴見諒平	
副館長	鈴木秀明	学芸員	勝川若奈	
総務課	課長	山田幸則	学芸員	河西久子
	主任主査	佐藤憲夫	学芸員	佐藤靖子
	臨時職員	長田ちひろ	学芸員	吉田功
	臨時職員	松本夏樹	学芸員	和知千紘
	臨時職員	佐々木実恵	学芸員	岸浪文香
	臨時職員	井憲治	学芸員	青木愛子
学芸課	主幹	山元出	学芸員	中山千尋
	副主幹	福田秀生	臨時職員	原宏子
	専門学芸員	大山孝正	臨時職員	松浦里美
	専門学芸員	門脇秀典	臨時職員	鈴木未来
	専門学芸員	菅原祥夫	臨時職員	久保木裕子
	専門学芸員	廣川紀子	臨時職員	根本裕子
職員総数28名				

(令和5年3月31日現在)

2 白河館管理運営費

- ・指定管理者委託料 270,014千円

第4章 白河館施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館
(愛称：まほろん)

所在地：〒961-0835

福島県白河市白坂字一里段86番地

設置者：福島県

開館：平成13年7月15日

管理機関：公益財団法人福島県文化振興財団

◎建築概要

- 敷地面積：51,827.51㎡
- 建築面積：本館・収蔵庫棟 5,866.328㎡
体験学習館 133.627㎡
- 延床面積：本館・収蔵庫棟 5,399.815㎡
(本館2,400.046㎡、収蔵庫棟 2,999.769㎡)
体験学習館 92.71㎡
- 構造
 - ①本館棟 鉄筋コンクリート造
 - ②収蔵庫棟 鉄骨造
 - ③体験学習館 木造
- 駐車台数等
 - ①一般駐車場 91台 (うち身障者用4台)
 - ②大型車駐車場 10台
 - ③職員駐車場 21台
 - ④駐輪場 28台
- 地域地区：都市計画区域内、無指定

◎設備概要

- 電気設備：
 - ・受電方式／高圧6.6KV 1回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電50KVA
 - ・非常照明設備：建築基準法に基づいて設置
 - ・放送設備：非常放送と兼用、出力240W
 - ・電気時計設備、テレビ共同視聴設備、インターホン設備
 - ・電話設備：電子交換機、外線4回線
 - ・監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停制御及び計測監視
- 空調設備
 - ・空調方式
一般系統／ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式 (一部空冷HP) + 静止型全熱交

換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト (空冷冷専パッケージ+電気ヒーター+アルカリ除去フィルターユニット) 方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト (ガスエンジンHPP) 方式

- ・熱源：簡易ガス (ガス種別：プロパン)

3. 衛生設備

- ・給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水：屋内分流・屋外合流 (最終側でポンプアップ) 方式で下水道本管へ放流
- ・雨水：側溝放流
- ・多目的便所：屋内1箇所 (男女別)、屋外1箇所 (男女別)、トイレ呼出設備付

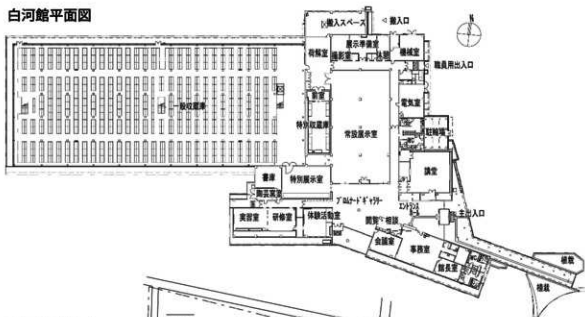
◎建築工事工期

- ・着工：平成11年7月12日
- ・完成：平成12年10月16日

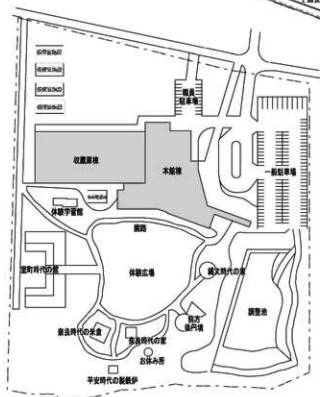
◎総建設費 3,300,625千円

- ・内訳 建築費 2,690,848千円
公有財産購入費 222,095千円
その他の経費 387,682千円

白河館平面図



白河館配置図



主要諸室面積表 (㎡)

室名	面積	備考	室名	面積	備考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚2層目部分2,263㎡
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合計	5,400	
印刷室	16		体験学習館	93	
救護室	9		仮保管施設	889	5棟 (194㎡×4棟+113㎡)

第5章 白河館の条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日 福島県条例第43号)

(設 置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位 置)

第二条 白河館は、白河市白坂字一里段八十六番地に置く。

(平一八条例五一・一部改正)

(業 務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。
一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。

三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。

六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。
一 第三条各号に掲げる業務に関すること。

二 白河館の維持管理に関すること。
三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。

二 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。
三 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であつて、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。
五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条繰下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

一 前条の規定に違反した者

二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者

三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(平一七条例一〇七・旧第五条繰下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条繰下)

(委 任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条繰下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七年条例一〇七号)

1 この条例は、平成一八年四月一日から施行する。

2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手続は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則(平成一八年条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日 福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日であるときを除く。

三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(文化財等の特別利用)

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委 任)

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)の施行の日から施行する。

(施行の日=平成一三年七月一五日)

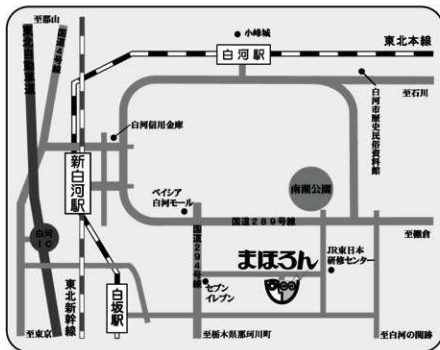
附 則 (平成一七年教委規則第一六号)

この規則は、平成十八年四月一日から施行する

白河館の利用案内

- 開館時間 ・午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休 館 日 ・毎週月曜日(国民の祝日・振替休日の場合はその翌日)
- ・国民の祝日の翌日(ただし土・日にあたる場合は開館)
- ・年末年始(12月28日～1月4日)
- 入 館 料 ・無料
- 交通案内 ・JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅から白河市循環バスまたは、福島交通バス(白坂・白坂駅行き)まほろんバス停下車

- ・JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅からJRバス(棚倉行き)南湖公園バス停下車徒歩25分
- ・東北自動車道白河ICから車で20分
- そ の 他 ・屋内、屋外に多目的トイレを備えています。車いす、ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館
年報 ～令和4年度実績～

令和5年9月29日発行

編集・発行 公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835 福島県白河市白坂一里段86番地
TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075
<https://www.fcp.or.jp/mahoron/>
